

「自分は大丈夫だろう」と考えない

災害に対して、人は楽観的です。例えば、人は宝くじにはひよっとしたら当たるかもしれないと考えますが、年間死亡者が約4千人弱の交通事故には、誰も自分が遭遇するとは考えていません。災害が起こっても、「大したことはないから大丈夫だろう」、「自分は大丈夫だろう」と思います。

阪神・淡路大震災の時に、普段動かないような大きな家具やテレビが飛んできてケガをされた方は全負傷者の46%、新潟県中越地震では41%いました。が、東京消防庁の調査では、実際に家具類の転倒・落下に対する対策を実施している人は、30%弱と言われており、いまだ改善されています。

防災の備えは自分の大切な人を守るために重要です

防災とは、「自分の大切な人を守ることである」と言われています。



9月1日は「防災の日」 自分の大切な人を守るために“備え”を！



実際に災害時に避難所でひどく落ち込まれている人は、自分の伴侶や子どもを亡くされた方々です。地震においては、できる限りの対策を施すことにより被害を最小限にし、風水害においては、避難勧告等が発令されれば、速やかに避難することにより、危険な状態に遭遇することなく、自分の大切な人を守ることにつながります。

このように、自分の大切な人を守るためには、「備え」が最も重要です。

防災の備えは、自助・共助の基本です

耐震化、家具の転倒防止、備蓄を行うなどの災害に対応できる周囲の環境整備のほかに、正しく行動できる知識を得ること、家庭や職場における避難所の確認といったことが必要です。

地域としても、日ごろから自主防災組織等の訓練により、近所に住む人たちの顔を知り、お互いに助け合える関係を構築することが必要です。